

21世紀ひょうご市民学会 会報



35号

2017年10月25日

—編集・発行—

21世紀ひょうご市民学会

「神戸生活創造センター」登録番号 630

代表 澤木昌典

<http://www.hyogo21ctzn.com>

超大型の台風21号で被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げます。

◇◆◇ 活動報告 (平成29年7~10月) ◇◆◇

❖ 第11回 総会が平成29年7月29日(土)に開催されました。

※ 詳細は2頁に掲載

❖ 第1回 研究会が平成29年9月21日(木)に開催されました。

神戸新聞の記事から話題を取り上げて議論

- ・ 増える老衰死 10年で3倍
- ・ 都市の成長可能性ランク神戸は11位
- ・ 寿命の限界は125歳
- ・ サプリで認知症防げ



お知らせ

1. 見学研修会を開催します！

場 所：「長谷寺・奈良県宇陀市松山重要伝統的建造物群保存地区」

開 催 日：平成29年11月25日(土)

集 合：JR神戸駅南側駐車場 午前8時50分

行 程：出発9:00⇒長谷寺⇒(昼食)⇒宇陀松山地区⇒帰路 18:00帰着予定

参 加 費：一人2,500円(当日徴収)

※昼食代、入山料を含みます。松山地区の見学料、旅行保険料は学会負担です)

参加申込：同封の返信はがきにて11月15日までに返信ください。



2. 送付文書

- (1) 会報35号
- (2) 会費納入のお願い(払込伝票)
- (3) 見学会「長谷寺・宇陀松山重要伝統的建造物群保存地区」のご案内(参加申し込みはがき)

第11回 平成29年度総会開催

— 新役員、見学研修候補地などを議論 —

21世紀ひょうご市民学会の平成29年度総会が平成29年7月29日(土)午後1時30分より神戸市中央区中山手通りの神戸市教育会館402号室で開催されました。総会は当日出席者が7名、委任状出席者が7名の計14名のもと、議長に澤木昌典代表世話人を選出して議事が進行されました。

第1号議案は会務・事業報告、平成28年度収支報告及び監査報告でした。その中で、会員数は残念ながら1名減の21名になったことが述べられました。一方、事業活動では、3回の会報発行や過去の研究成果冊子「生きる力」の発行、奈良・大阪の2カ所での屋外研修(見学)、併せて8回の知的サロン・研究会開催など、活動が活発に行われたことが報告されました。これらの結果、期中の収支は、できる限り経費の節減に努めましたが約58千円の赤字となり、次期繰越金も464千円と前期を下回ったことが述べられました。一方、会計監査については、会費収入に1名分の前受会費を含むこと、事業費支出に6月末付発行した会報34号印刷費の未払金が若干あることを確認して、監事より収支決算は適正と報告されました。

第2号議案は事業計画等についての提案でした。審議の結果、平成29年度も前年度同様、研究会と知的サロンの運営(屋外見学研修を含む)、及び会報発行・ホームページ更新等広報活動を二本柱とする案が異議なく承認されました。これらの実行予算については、会費収入に限られるなか、前年度よりさらに合理化した実支出予算(約181千円(繰越額を含め約527千円))が承認されました。このあと平成29年度の

屋外研修見学先について議論の結果、見学先は奈良・宇陀地区と長谷寺又は室生寺とし、同地区の街並みや歴史的建造物を11月25日(土)(特別支出、予算100千円)に実地見学することになりました。

第3号議案は平成29年度役員の内での件でした。前役員2年の任期が満了となりましたので、新役員が選任されました。その結果、会員数や行事参加人数が減少の中、交代ルール適用が難しく、澤木昌典代表世話人以下、執行役員は全員が留任となりました(任期2年)。なお監事については2名の内、ご高齢の豊田實氏に代わり橋本昌子氏が新たに選任され、就任されました。

以上で平成29年度総会は無事終了し午後3時30分、散会となりました。(平成29年7月苗村記)

平成29年度 世話人(敬称略)

役職・担当	氏名	備考
代表	澤木 昌典	留任
総務	塩野 勝	留任(総務)
	松原 宏治	留任(広報・会計)
企画	計盛 哲夫	留任
知的サロン	足立 隆子	留任
研究活動	世話役全員でカバー	
監事	苗村 康弘	留任
	橋本 昌子	新任

第48回 知的サロン 「宇陀市松山について」

平成29年10月12日(木)

松原 宏治

奈良県東部に位置し、平成18年大宇陀町、菟田野町、榛原町、室生村が合併して宇陀市となった。

平安時代以降、この地域は荘園として興福寺の支配下にあった。南北朝時代から戦国時代にかけては、伊勢国司北畠氏の勢力をしいに受けようになり、その後江戸時代には宇陀松山藩として織田氏4代の統治の後、幕府の直轄地となった。

大宇陀地区は飛鳥時代から阿騎野と呼ばれる宮廷の狩場であった。

大和と伊賀・伊勢を結ぶ東西の交通の要衝であり室町時代に始まり江戸時代に盛んになった庶民のお伊勢参りのルートにあたり、宿場町として繁栄した。

松山地区は戦国時代に「宇陀三将」と称された秋山

氏の本拠地城下町として始まる。天正13年(1585)に秋山氏が追放された後、豊臣家配下の大名によって城の大改修と城下町の拡大整備が行われ、町名も阿貴町から松山町へと変わった。その後、松山町・神戸村・政始村・上竜門村と合併、旧大宇陀町となる。現在は宇陀市。

平成18年7月松山地区は重要伝統的建造物群保存地区に指定された。現在、公開されているのは、まちづくりセンター「千軒舎」、町なみギャラリー「石景庵」、大宇陀歴史文化館「薬の館」である。そのほか、江戸中期に開園した森野旧薬園は民間の薬草園として最古のもの。(宇陀市ホームページ、宇陀観光協会ホームページによる)